



観音菩薩の慈愛の心を広めたい かんのんボランティア会の取組み

ほうしゃくじ
曹洞宗 宝積寺 (甘楽郡甘楽町轟774)



西有孝裕住職

歴史ある寺院

甘楽町にある曹洞宗 宝積寺は、1280年頃にはすでに天台宗の寺として栄えていました。鎌倉時代から戦国時代まで当地を治めていた小幡氏が滅ぶと、1616年に織田信長の孫の織田信良公が小幡藩主となり菩提寺に定められました。近年まで厳しい修行道場として全国から修行僧が集まり、分家寺は46寺を数えます。

お菊さま伝説と 観音像の建立

宝積寺には怪談『番町皿屋敷』の元になった『お菊さま伝説』が伝わります。お菊さまは、国峰城主小幡信貞公に仕えた腰元で、美しく聡明で信貞公の寵愛を受けたことから、奥方様の嫉妬を買った罪で菊が池で蛇責めの刑に処せられ19歳で命を落とします。後に追善供養が度々行われ、宝積寺



菊女観音菩薩

境内の観音様として祀られました。1993年には台座からの総丈5.9メートルの菊女観音菩薩が建立され開眼法要が行われました。

仏の心を実践する ボランティア会を組織

観音菩薩の慈愛の精神を広めるべく、1995年に「かんのんボランティア会」を立ち上げました。西有孝裕住職は「発足2カ月後に起きた阪神淡路大震災では、お寺の寺子屋、写経会のメンバーと共に托鉢をして被災地域に義援金を送ることができました。また、カンボジアの子どもたちに小学校や絵本を贈る運動に参加し、多くのカンボジアの人たちに喜んでもらうことができました。甘楽富岡曹洞宗寺院と共に、東日本大震災の被災地・陸前高田市との絆を大切に、折に触れ必要な物資を届けるなど大勢の人たちのご協力で行っています」と話し、お寺ならではの活動に精力的に取り組んでいます。

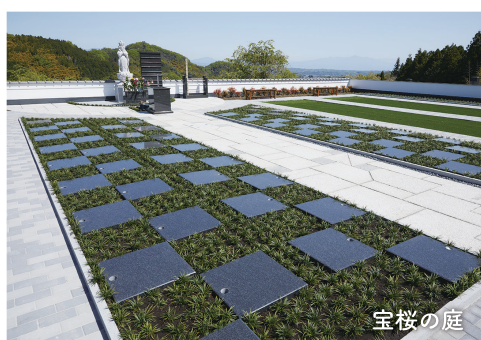


小幡七福神めぐり



陸前高田市で物故者供養と万灯供養

東国花の寺
春の枝垂れ桜、梅雨の紫陽花、秋の大イチョウなど、四季折々の美しい風景があります。
宝桜の庭
日本一安心できる墓所を目指す宝桜の庭(樹木葬墓・永代供養墓)
小幡七福神めぐり
ふくよかな耳で人々の願いを聞く布袋様。頭をなでながらお参りください。



宝桜の庭



東国花の寺